

技術・家庭科の住居における内容構造と 効果的学習に関する研究

佐々野 好 継*

(平成16年3月15日)

A Study on Substance Structure and its Effects on Housing in Domestic Science

Yoshitsugu SASANO*

(Received March 15, 2004)

1. 序

1.1 研究の背景

文部省初等中等教育局視学官の河野公子氏は「中学校学習指導要領の展開（明治図書）」の中の「技術・家庭科の現状と課題」の中で、「技術・家庭科11領域のうち、すべての生徒が共通に履修するのは、「木材加工」、「電気」、「家庭生活」、「食物」の4領域であり、生徒の興味・関心等に応じて、残りの7領域から3領域を履修することになっている。平成9年度教育課程実施状況調査によると、「木材加工」44%、「機械」57%、「栽培」18%、「情報基礎」96%、「被服」67%、「住居」28%、「保育」82%であり、「栽培」や「住居」など、履修率の少ない領域のあり方等、今後、内容の統合整理を図り、領域の構成を見直すことが必要である。また、各学校の指導計画においては、生徒の興味・関心等に応じて履修する領域のさせ方が、生徒選択ではなく、教員の人数や持ち時間数、施設・設備などの学校側の条件によって設定されている場合が多い」と指摘している。

1.2 目的

本研究は、河野氏の「今後、内容の統合整理を図り、領域の構成を見直すことが必要である。」との認識と現状を受けて、家庭科・住居における小・中・高の段階的内容の構造を明らかにし、その上で、住居の効果的学習のフィールドを位置付け・明らかにする。

*長崎大学教育学部家政教育

1. 3 方法

文献分析の手法を今回は適用する。

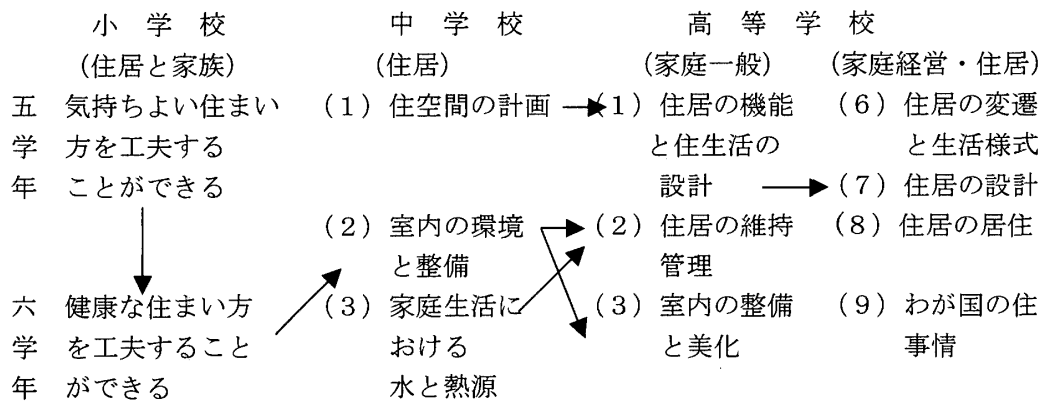
1. 4 意義

住居の内容の統合整理を図り・領域の構成を見直し，その上で，総合的学習の時間に「住居」を位置付けた点である。

1. 5 位置

小原氏は，技術・家庭科教育選書「住居」の中で，「住居の教育は，自然科学，社会科学，人文科学の各分野にわたる幅広い内容に基づいている」と，まず指摘し，その上で，「中学校の技術・家庭科における「住居」の内容は，小学校家庭科における「すまい」，算数科における「図形」および図画工作における「工作」の学習を基礎として，家具を中心に発展に取り扱うように考えられている。・・・また・・・住宅問題はたいへん難しいテーマです。政治，経済，文化など多岐の問題が関係してきますし，いろいろな見方・考え方があります。それを一つの言葉で間違いなく教えることは，技術・家庭科の分野では困難でしょう。むしろ，社会科の分野で教えてもらうほうが効果的でしょう。」と他の教科との関係性の中で技術・家庭科の「住居」を位置付けることを提案している。

また，秋山晴子氏は「住居領域の効果的指導」の中で，小・中・高等学校における住居領域を「関連図式」的に把握することが，学習の効果的指導につながることを，すでに指摘している（表1）。



注 小原氏の見解は，この表では，(8) (9) は社会科で，(3) の室内の美化は，美術の領域でと統合整理される。

表1 家庭科における住領域の関連図式

2. 家庭科における住居の内容と分析

2. 1 はじめに

ここでは，小・中・高等学校における学習指導要領の内容を「住居」の概念を構成している3要素：①環境，②生活，そして③空間の3つの視点から分析する。

2. 2 小・中・高校における学習指導要領の内容

[小学校]

「(6) 住まい方に関心を持って、身の回りを快適に整えることができるようにする。
ア 整理・整頓や掃除を工夫すること。イ 身の回りを快適に整えるための手立てや工夫を調べ気持ちよい住まい方を考えること。」が、その内容である。

[中学校(家庭分野)]

「A 生活の自立と衣食住」の中の「(4) 室内環境の整備と住まい方について、次の事項を指導する。ア 家族が住まう空間としての住居の機能を知ること。イ 安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができること。」が、その内容である。

[高等学校]

1. 家庭基礎

「ウ) 住生活管理と健康：住居の機能，住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識と技術を習得させ，家族の住生活を健康で快適に営むことができるようにする」が，その内容である(1)。

2. 家庭総合

「ウ) 住生活の科学と文化：住居の機能，住空間の計画，住環境の整備などについて科学的に理解させると共に，住生活の文化に関心を持たせ，必要な技術を習得して充実した住生活を営むことができるようにする」と，記述している。

3. 生活技術

「(6) 住生活の設計とインテリアデザイン：住居の機能，設計，管理などに関する地域と技術を習得させ，充実した住生活を営むことができるようにする。

2. 3 おわりに

(1) 住居概念の内容は，①環境，②生活，そして③空間の3要素で構成されていることを明らかにした(図1)。

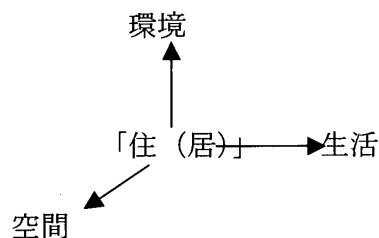


図1 住居の概念図式

(2) 住居における内容の段階的構造は、図2で表されることを明らかにした。

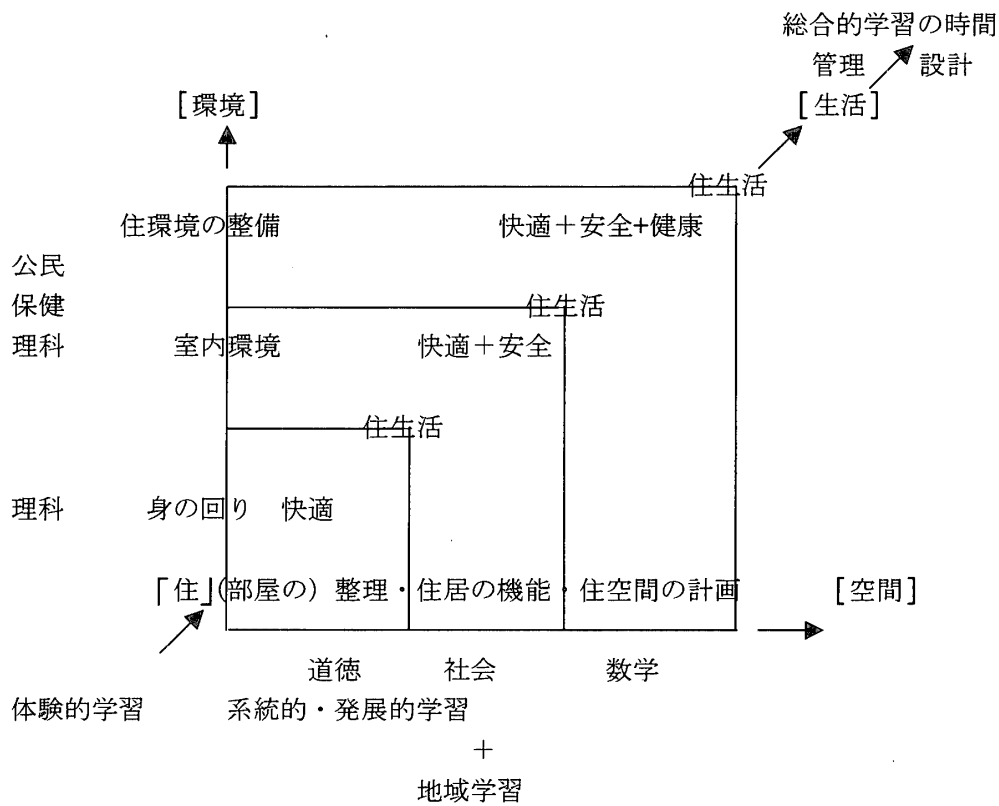


図2 住居の段階的構造の図式

3. 技術・家庭科における住居との関連教科

3. 1はじめに

ここでは、住居の段階的図式(図2)を下敷きにして、「建築学用語辞典」などと参照しながら、他の教科との接点を明らかにする。

3.2 関連図式

関連図式を図3に示す。

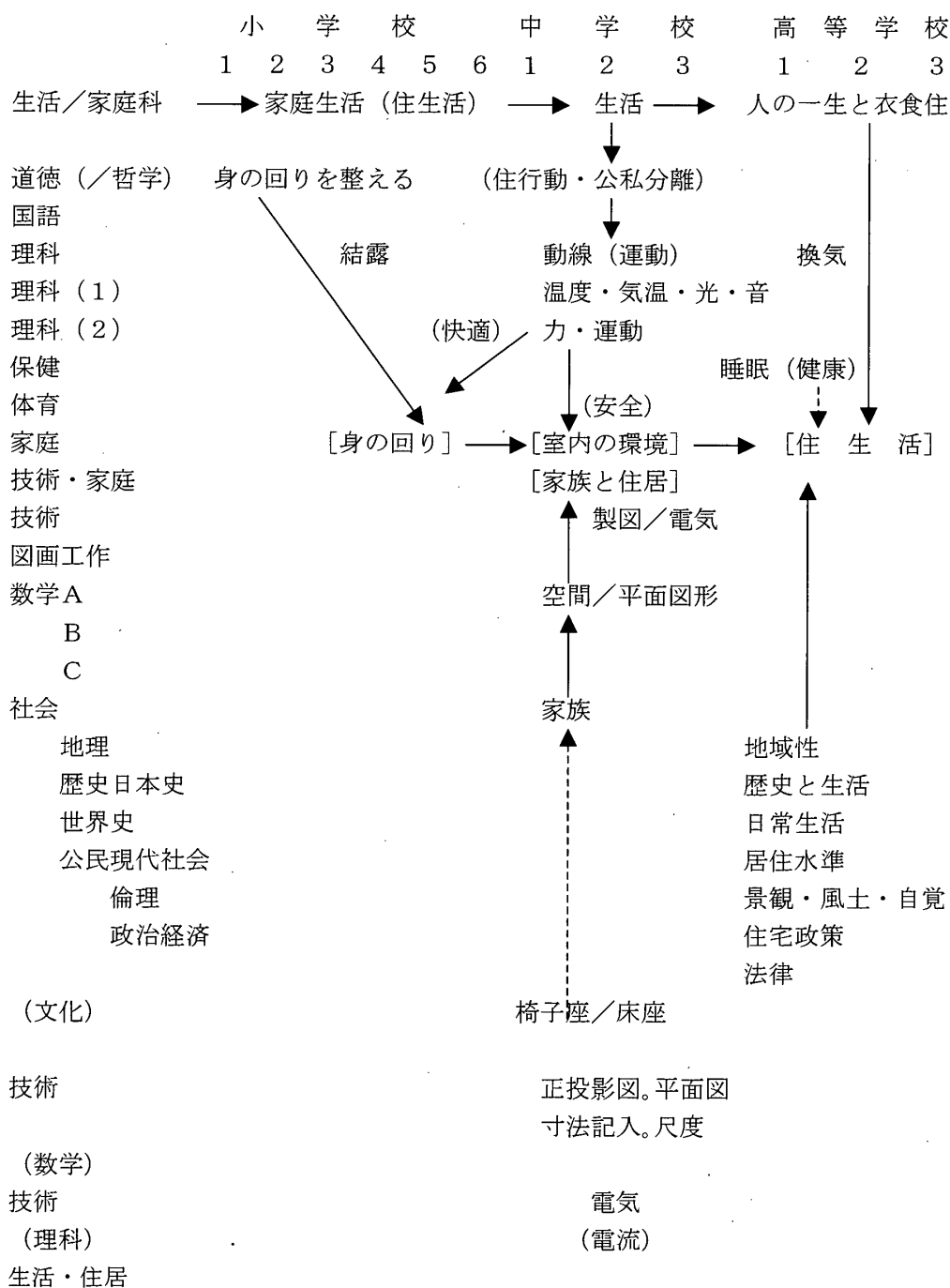
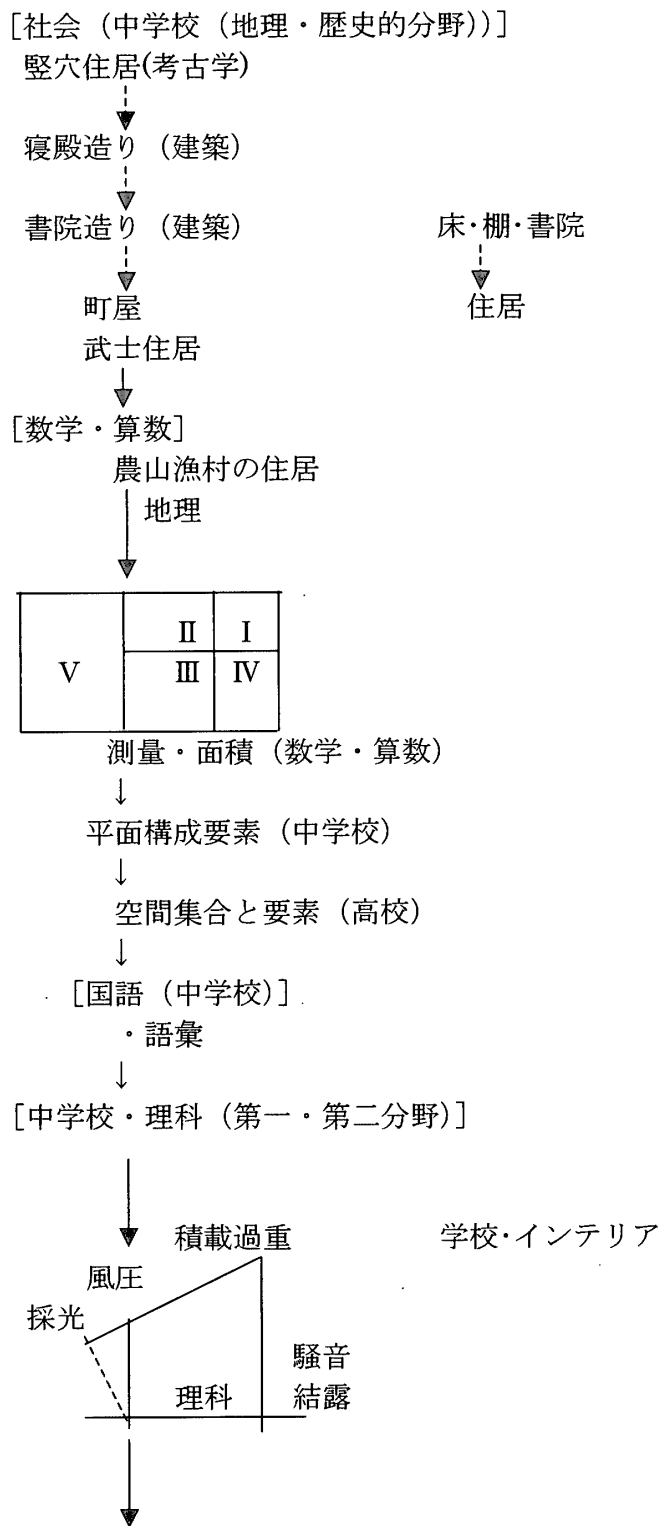


図3 関連図式 (家庭科小・中・高における学習指導要領の内容構造)

3. 3 住関連教科における効果的指導のフロー図式

フロー図式を、図4に示す。



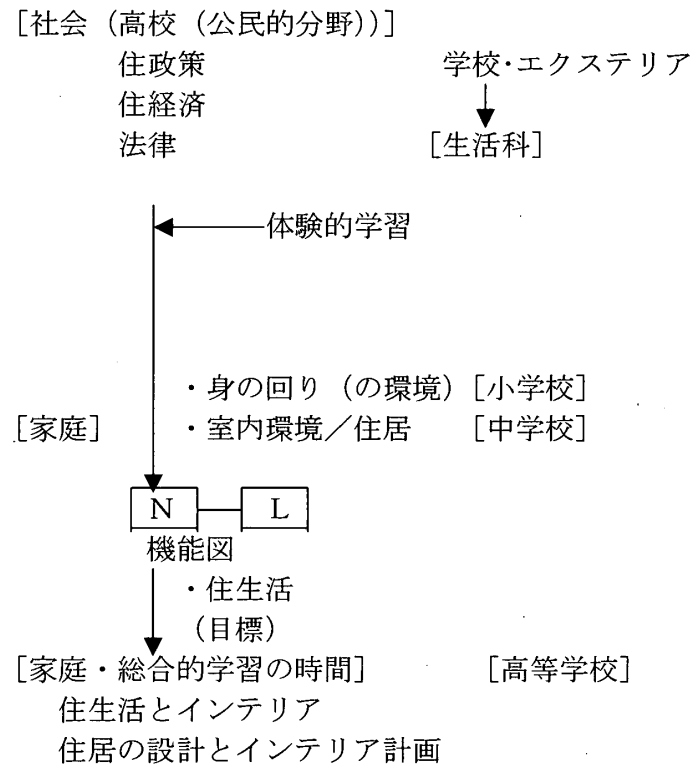


図4 住居関係のフロー図式

3. 4 おわりに

住居に関連する主な教科に、理科 (中学校)、数学、そして社会が位置付けられることを明らかにした。

4. 結論

(1) 住居の概念は、①環境、②生活、そして③空間の3要素で構成されていることを明らかにした。

(2) 住居は、「総合的学習の時間」のテーマの一つとして位置付けられることを明らかにした。